

キリンサイの増養殖試験

宮古市庁農林水産振興課 長 嶺 巖

1. 要 約

1) キリンサイの増殖を図るために、平成7年度から9年度の3ヶ年新技術定着試験を実施した。

2) ロープ挟み込み方式と網袋方式では、キリンサイの母藻がスレによる脱落が多く十分な成果を得ることができなかったため、ロープ挟み込み方式の改良、石に輪ゴムで固定する方法を用いた。

3) 試験地を波浪の静穏度が良く、栄養塩の高い与那覇湾に変更した。

2. 目 的

宮古島では、キリンサイをウル（エダサンゴに似ている）と呼んでいる。

キレンサイを用いて、真水1：原藻1の割合で鍋に30分ほど煮込むと解けてゼリー状になり、海藻寒天（ウルス）として重宝がられている。

観光お土産品やレストランで需用が多いことから天然のキリンサイは乱獲で減少し、石垣島やフィリピンから輸入して対応しているのが現状である。

そこで、特産品ウルスの原料であるキリンサイの増養殖技術の確立することによって特産品ウルスの原料を確保する目的で新技術定着試験を実施した。

3. 試験場所及び協力者

試験場所：宮古島与那覇湾

協 力 者：沖縄県指導漁業士 儀保正司

4. 材料及び方法

1) ロープ挟み込み方式

12mmクレモナロープで20m×20mの正方形の

枠をつくり5分鉄筋を用いて、固定。それに、クレモナロープ12mmに3mmのPPロープを巻いて1m間隔で18本の挟み込み基盤をつくった。

20mのロープに50cm間隔で天然キリンサイの枝（約10cm）を挟み込み成長試験を行った。

2) 石に輪ゴムで固定方式

重さ約1kgの石灰岩ぐり石に6mm幅輪ゴムを用いてキリンサイの枝を挟み込む原始的な方法で増殖試験を行った。

石は覆石防止のため水深3mのアジ藻場に30cm間隔で100個敷きつめた。

5. 試験結果と考察

10月13日に、増養殖試験を開始した挟み込み方式のキリンサイは2月3日から収穫を開始した1株当たりの平均重量は480gで30gの母藻からの成長率は16倍と成長、スピードは良好である。

また、挟み込み株の脱落もなく根はロープにしっかり根付いていた。今後栄養体生殖の状況を確認しながら収穫サイクルの調査をしていきたい。

石に輪ゴムで傑作する方式は、挟み込み方式から収穫した母藻を用いて2月17日から増殖試験を開始した。

中国海南島では、この粗放的な増殖を行って成功しているので成長確認を行いながらロープ挟み込み方式と比較実証していきたい。



